

kims University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】

McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology*. 183—238 in McC. Brooks, Ch. and Craneheld, P.F. (eds.): *The Historical Development of Physiological Thought*. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の変更や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一  
順天堂大学医学部医史学研究室内  
日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

今年の日本医史学会総会はさわやかな札幌で行なわれた。地元の先生方がった学会であった。関係者のご苦労に感謝している。

総会直前になって、名誉会長の大鳥蘭三郎先生のご逝去という悲報が入った。この所十年近く学会に姿をお見せにならず療養生活が続けておられたが、一九三二年に慶応の医学部を卒業と同時に医史学研究の道に足を踏み込まれたのだから医史学に貢献された期間は抜群に長く、業績を沢山残された。あの独特の優しい笑顔は諸兄弟の脳裏に焼き付いていることだろう。本誌がお手元に届く頃、九月二三日に「偲ぶ会」が開かれる。

学会後、今度は関西の重鎮日本医史学会の常任理事である宗田一先生が大鳥先生の後を追うように亡くなられた。精力的に執筆活動が続けておられたのに残念なことである。昨春秋、兵庫県の「アスクレピオスの像」がある西紀町で元気に発表しておられたお姿からは想像もできないニュースだった。ご冥福をお祈りする。

学会の巨星が続いて消え、淋しき一入である。しかし、本誌を見て頂くと分かるように、力作が目白押しである。本誌に発表した論文の中から選ばれる日本医史学会の学術奨励賞を今年受けたミヒエル氏の「カスバル」を巡る一連の論文など読みごたえのある充実した号になった。諸兄弟のご投稿をお待ちしている。投稿規定にもう一度目を通してからご執筆ください。(大村 敏郎)